

「夫から妻への性的暴力」 ～妻が受けた心身の傷～

- 仮名：Dさん
- 年齢：35歳
- 性別：女性
- 夫婦間問題

【AVで見たことを妻に強要する夫】

Dさんは夫と子どもの3人暮らし。大学教授の夫とはDさんが学生の頃に知り合い、恋愛結婚。その後は待望の第1子を授かり、傍から見れば順風満帆とも思える暮らしぶりだった。しかし、Dさんは誰にも言えない悩みを抱えていた。それは、毎晩のように繰り返される「夫からの性的暴力」の強要だ。ここへ相談に来るまで、行政機関や身内、友達にすら相談出来ず、一人で苦しみ続けてきたのだった。面談が始まると、Dさんは勇気をふりしぼって話をはじめた。夫はDさんにAVで見たことを強要し、異常な性的行為の末、女性器と肛門を裂傷させられるなどの大けがを負っていたのだ。また、言うことに従わないときには酒を飲んで暴れ、Dさんの首を絞めては壁に押し付けるなど、常軌を逸脱した暴力が日常化していた。度重なる暴力に耐えかね、Dさんは「いっそのこと他に女性をつくってくれたらいいのに…」と声を振り絞り、その場に泣き崩れた。私はすぐにDさんをシェルターへ入れる手配をし、しばらくの間夫から離れて傷ついた心と身体を癒やすように促した。もちろん夫には居場所は知らせない。

【身勝手な暴力に弁解の余地なし】

後日、夫を呼んで話をした。「整形外科と婦人科から診断書が出ている。あんたの異常行為のせいで、奥さんは頸椎を損傷し、性器と肛門を裂傷。3針も縫っている。度を超えているんだよ。普通じゃないよ。」そう告げた。しかし夫は「妻なんだから、亭主が望んだことに協力すべきだ」という。何が“すべき”なのか。「奥さんはこの件で傷つき、男性不信に陥っている。男にはわからんよな。それともあんた、刑務所行くか？いくら夫婦間でも今回のようなケースなら強姦罪成り立つよ。刑務所行って、いっぺんケツを掘られてみるといい。」そう言ってやった。夫に弁解の余地などない。すると夫は「じゃあ、どうしたらいいんですか？」と逆に私に聞いてくる。「どうするも何も、奥さんの体と心を癒やすのが先だよ。体が癒えるまでに最低でも半年の猶予が必要だろう。半年経って、奥さんがあんたと離婚するか、やり直すかは、この先のあんたの誠意にかかっている。もし毎月15万でも養育費を送っていたらやり直すチャンスはあるかもしれない。ここで何も償わないのなら、それで終わりだろう。」「たとえ今後離婚に至ったとしても、慰謝料や養育費を払うのは当然の責任だ。やっぱり人間はそういうモラルを持っていくちゃいけない。払わないのは人間以下だ。」と言って夫を帰した。

【時間が問題を緩和する】

夫にも話したように、最低でも半年くらいの別居期間は必要だ。恨みつらみを冷まさないといけないからだ。更にもその間、お互いのエネルギーも変化していく。とにかくここは、時間が解決するのを待つ。Dさんがシェルターに入って約7カ月経つ。夫は毎月養育費を振り込んでいるが、この夫婦はどんな結論を出すのだろう。

【ここがPOINT】……………

ポイントは3つある。1つ目は、性的暴力を受けた女性には、本人が話したくないことを無理やり聞かないこと。2つ目は、このように心身ともに傷ついている女性はまずシェルターで休むこと。急いで将来を決める必要はないので、まずは休んで心身を癒やすこと。そして、冷却期間をおくことが大切だ。そして3つ目は、DV夫に養育費や生活費を払ってもらふこと。最低限のお金があるのとないのでは、天国と地獄である。



2013年10月12日から、東日本大震災による被災地の仮設住宅（宮城県）に行く「出張駆け込み寺」を行わせていただいています。

※画像は2014年6月21日の絵手紙教室のようす※